

【実践編】

Question 5 : 移乗方法はどうやって、選んだらいいのですか？

Answer :

対象者の姿勢保持能力、対象者の協力、移乗用具・機器の有無、介助者の人数を条件・基準として選ぶとよいでしょう。その他、対象者の体格、麻痺の有無や身体条件、認知機能に関わる検討の際には、専門家に相談する必要があります。また、使い慣れていない移乗用具を使用する場合も同様です。

- ◆移乗方法を決めるためには、対象者の様々な条件や能力と介助者の条件や身体的な負担、作業環境の問題など、様々なことを考慮する必要がありますが、そうすると複雑になり、時間がかかってしまいます。そこで私たちは、対象者の安全・安楽・自立支援および介助者の身体的負担をふまえた上で、共通して重要な条件・基準を抽出し、移乗方法を簡便に決定するためのフローチャートを作成しました。以下に、ベッド⇄ストレッチャー・車椅子移乗フローチャートを示します。なお、共通条件・基準は、**<対象者の姿勢保持能力><対象者の協力が得られるか><移乗用具・機器の使用><介助者の人数>**の4点です。
- ◆**<対象者の姿勢保持能力>**：対象者の姿勢保持の能力に関わる条件です。対象者は、座位の姿勢がとれるかを確認します。このときは、介助があってもなくても姿勢がとれるかが重要です。
- ◆**<対象者の協力が得られるか>**：対象者に協力を依頼した時に、その内容を理解する認知能力や声かけに合わせて体を動かそうとする残存機能がどの程度あるかを確認します。対象者の協力が得られるならば、自立支援にもつながりますし、移乗動作もずいぶんと楽になるでしょう。
- ◆**<移乗用具・機器の使用>**：対象者の移乗動作の介助では、適切な移乗用具・機器を準備しておく必要があります。このフローチャートで示した移乗用具・機器については、準備すべき道具としての基準と考えてください。
- ◆**<介助者の人数>**：介助者も、対象者の能力や移乗用具・機器に合わせて、人数を確保する必要があります。基準と考えてください。
- ◆フローチャートを使うことで、ある程度、条件が難しくない対象者の移乗方法は選択することができますが、麻痺の有無や身体条件、認知機能に関わる個別条件のある対象者については、医師、理学療法士、作業療法士、脳卒中リハビリテーション看護等の認定看護師に相談しましょう。また、はじめて移乗用具を使用する場合は、医師、福祉用具専門相談員、理学療法士、看護師、ケアマネージャー等に相談しましょう。

ベッド⇔ストレッチャー・車椅子移乗フローチャート

